

# 第三十四回廣田鑑賞会能

二〇二三年十月一日（日）午後一時半始曲

## ご挨拶

平素は廣田鑑賞会をご支援いただき、誠にありがとうございます。

初めて「砧」を廣田鑑賞会で演じさせていただいたのは平成十七年（二〇〇五年）の第四回でした。その時の冊子挨拶で、「砧」は「能樂師にとても氣の引き締まる思いで師匠の教えを受ける大曲のひとつ」であり、「高齢の父が元気なうちに早く稽古をつけてもらうため家元にお許しを頂きました」と書かせて頂きました。十八年たった今、先代のお家元も、私の父もすでに七く、私自身が孫に舞台を見せる立場となり、感慨もひとしおです。ワキも十八年前の舞台と同じく宝生欣哉氏に勤めて頂きます。経験を重ねて改めて感じること、分かることもあります。今、自分にでき得る限りの舞台を勤めたいと思います。当日のみなさまのご高覧を、心よりお待ちしております。

二〇二三年 水無月吉日

廣田鑑賞会 廣田幸穂

## 番組

◎午後一時半始曲

舞囃子 高砂 廣田明幸 谷口正壽 井上敬介 中村洋臣 憲明貞助  
能砧 桦之出 宝生欣哉 久田舜一郎 左鴻泰弘 湯川稜 宇高徳成  
豊嶋幸嗣 松野恭憲 上吉川徹

狂言 昆布壳 善竹隆平 善竹隆司

—休憩— 二十分

山田伊紺

廣田幸穂

能砧  
桙之出

豊嶋幸洋  
間 善竹隆司

後見金剛永謹

宇高徳成

◎午後四時頃終了予定  
都合により内容を一部変更する場合もございます。

## 舞囃子 「高砂（たかさご）」

阿蘇の神官が播磨国高砂の浦で老夫婦に出会う。高砂の松を掃き清める二人は、「相生の松」の謂れや御代を寿ぐ和歌の道を説いたあと、自分たちは高砂と住吉の夫婦の神だと明かして姿を消す。仕舞は、神体で現れた住吉明神が祝福の舞を舞う、一曲の最後（キリ）の部分。

## 狂言 「昆布壳（こぶうり）」

京都北野の御手洗祭に行こうと家を出た大名。たまたま其の者がいなかつたため、通りかかった昆布売りに無理やり太刀持ちを頼む。が、商売に来た昆布売りにどうて迷惑な話。最初は大名に従いつも、油断をさせて太刀で大名を脅し、逆に大名に昆布売りをさせた。意外にも謡節、淨瑠璃節、小唄節で売り声を唄いわけるなど、大名もなかなかの芸達者。そのまま太刀を持ち逃げしようと昆布売りを追つて幕となる。

## 能 「砧（きぬた）」

九州芦屋郡福岡県遠賀郡芦屋町に住む何某は、訴訟のために都に行つたまま三年が過ぎていた。故郷に残した妻が気になり、侍女・夕霧に、今年の暮には必ず帰ると言付けて故郷に向わせた。夫をいつまでも心変わりを疑っていた妻は、夫に仕えて都に移つたままだった夕霧に恨み言をいながらもその報せに喜び、募る想いを砧を打つて慰める。砧の音、夜風のざわめき、虫の声と続く謡は二曲の聞かせどころ。ところが、妻の願い空しく、さらに夫から、今年も帰れなくなつたとの報せが届く。耐え続けていた彼女の気持ちは途切れ、そのまま病に伏して死んでしまう。（中入り）悲報を聞いて急いで帰郷した夫だったが、悔いても妻は生き返らない。せめても、梓弓で妻の靈をことよせると、彼女は夫への恋情と恨みを残して死んだ為に、砧の音も松風の声も聞えぬ地獄に落ち、亡者の声だけを聞いて苦しんでいるという。夫は妻のために法華經を読経し、法の力によつて妻はようやく成仏していくのであつた。

当日配布冊子解説

成城大学教授 桐山女学院大学教授 大谷 駿  
元甲南大学教授 西條 恵理人子  
水谷 弓隆雄

前シテ 後シテ ワキ // 芦屋某  
ツレ // 夕霧 // 芦屋某  
妻の靈 // 芦屋某



廣田幸穂（ひろた ゆきとし）  
2008年生  
祖父は廣田幸穂

※当日解説付番組あります。

〈次回公演予定〉

第35回 廣田鑑賞会能 2024年10月6日(日) 午後一時半始曲 能「野宮」廣田幸穂 他 舞囃子 狂言

ホームページ URL <https://hirotaharu.com>

右のQRコードで携帯からもアクセスできます。



FAXにても、ご予約を承ります。廣田鑑賞会 **075-781-1885**までご送信ください。切符は当日受付にて、お引渡しとなります。

## 《第34回廣田鑑賞会能 申し込み》

■お名前

一般券（8,000円/正面・脇正面席） 枚

■お電話

一般券（5,000円/中正面席） 枚

■ご住所

学生券（2,500円/学生席） 枚

※ □内にチェックして下さい

チケット取扱所

●金剛能楽堂 075-441-7222 ●京都新聞文化センター  
●KENSYOインターネットチケットサービス <http://www.nohkyogen.jp/>(PC) <http://nohkyogen.jp/mobile>(携帯)  
●セクターエイティエイト 06-6353-8988 ●廣田鑑賞会